

障害者支援施設、共同生活援助等の看取りにおける
ICF 活用に向けて

—ICF 活用の困難さを軽減する方法に関する研究—

分担研究報告書

令和 5 年度厚生労働科学研究費補助金
(障害者政策総合研究事業 (身体・知的等障害分野))
障害者支援施設や共同生活援助事業所、居宅支援における高齢障害者の看取り・終末期の
支援を行うための研究 (23GC1008)
分担研究報告書

障害者支援施設、共同生活援助等の看取りにおける ICF 活用に向けて
—ICF 活用の困難さを軽減する方法に関する研究—

分担研究者 日詰 正文 (独立行政法人国立のぞみの園 研究部)
研究協力者 村岡 美幸 (独立行政法人国立のぞみの園 研究部)

研究要旨

国際生活機能分類 (ICF) は、多職種連携の際の共通言語として有効なツールである一方で、項目数の多さから、導入に対して困難さを感じる支援者は少なくない。本研究では、障害者支援施設や共同生活援助等の支援者を対象にヒアリング調査を行い、ICF 活用に対して感じる困難さを軽減するための方策を検討した。

A. 背景

看取り、終末期ケアは、疾病や痛みだけでなく、本人の思いを捉えながら取り組む必要がある。その実現に向けた取り組みのひとつとして、「アドバンス・ケア・プランニング (Advance Care Planning) (以下、ACP)」がある。ACP とは、将来の変化に備え、将来の医療及びケアについて、本人を主体に、そのご家族や近い人、医療・ケアチームが、繰り返し話し合いを行い、本人による意思決定を支援する取り組みのことであり¹⁾、本人や家族・親族に加え、看護師・薬剤師・介護士・ソーシャルワーカー等の専門職が参加して行われるため、参加者が共通言語を用いながら話し合いをすることが求められる。多職種連携の際の共通言語として、国際生活機能分類 (以下、ICF) の活用が考えられるものの、ICF の項目数の多

さから、活用に対して困難さを感じる支援者は少なくない²⁾。こうした中、コアセット等の開発が行われているが、十分に活用されているとは言えない様子がうかがえる。

B. 目的

本研究では、障害者支援施設や共同生活援助等の支援者が、ICF 活用に対して感じる困難さを軽減するための方策を検討することを目的とした。

C. 方法

支援者が、ICF 活用に対して感じる困難さは、項目数の多さと、項目を書き出した後、どのように個別支援計画に活用すればよいのかわからないという点があると考えられた。

そこで、①支援者へのヒアリング調査と、

②文献調査を実施した。

①ヒアリング調査

A 園 10 名の支援員に対し実施した。ヒアリングは、ICF の印象、ワークシートの活用方法と活用例を説明した上で、ワークシートの印象と活用上の課題を半構造化面接にて、2024 年 2 月に実施した。

②文献調査

ICF 項目の相互作用を視覚的に捉えられるワークシートを、Google・J-stage・医中誌 Web で検索した。

(倫理面への配慮)

本研究は、国立のぞみの園研究倫理審査委員会で承認を得て実施した(承認番号 05-10j-01)。

D. 結果

1) 支援員の ICF への印象

支援員らは、活用の難しさを感じていた一方で、概念図での整理や、ICF 項目を意識しながら支援をすることは重要だと感じていた。

2) 支援員の ICF 項目を可視化するためのワークシートへの印象

文献調査の結果、ワークシートは主に 2 種類あった。1 つは、概念図で ICF 項目内容の一部を可視化したシート(図 1)³⁾、もう 1 つは、縦軸を活動の第 2 レベル(学習と知識の応用・一般的な課題と要求等)の項目、横軸を第一レベル(心身機能・身体構造、活動、参加等)の項目で設定したものであった(表 1)³⁾。

上記 2 種類のシートに対する支援員の印象は、「1 枚のシートで本人の全体を俯瞰し

て捉えられるので、個別支援計画が検討しやすい」「見落としていた点に気づける」「チームで取り組みそう」「少しずついいのであれば活用してみたい」「健康状態との相互作用も意識できるので、医療的ケアや看取りケアが中心の利用者にも活用できる」「本人の思い、主観的体験等の枠があるので意思決定支援の際にも活用できる」「支援内容を家族等に説明する時に活用したい」等であった。

3) ICF 項目を可視化するためのワークシート活用上の課題

活用上の課題は、「項目に何を書き入れたらいいのかわからないので、ICF を使い慣れている人がいないと困る」「支援計画や評価との連動がうまくできるか不安」等であった。

E. 考察

ヒアリングの結果、支援者は 2 種類の ICF 項目を可視化するシートの活用について、前向きであった。中でも「本人の思い」「主観的体験」を記入する欄があることで、個別支援会議の記録用紙としての活用ができること、また、支援の根拠が明確になることに有用性を感じていた。

ワークシート記入上の不安は、以下の 4 つの方法により解消できると考えられた。

①ICF の項目をイラスト付きで解説している「ICF イラストライブラリー」⁴⁾の活用、②事象や状態から ICF-CY コードが検索できる「e-Angel Edition」⁵⁾の活用、③強みや支援の維持、修正、考案等別に、ICF 項目の分類が可能な ICF システム⁶⁾等の活用、④チームによる実施、等である。また、NPO

大阪障害者センターが発刊している「ICFを活用した介護過程と個別支援計画」の中で、ICF 疾患関連図が紹介されている。この図は、疾病を軸に ICF 項目の相互作用を整理する図であることから、看取り・終末期ケア・医療的ケアが必要となる人を対象に情報を整理する際に、活用できると考えられた。

F. まとめ

支援員が、ICF 活用に対して感じる困難さを軽減する方策のひとつとして、図表による ICF 情報の可視化が有用であると考えられた。

支援は、大川が「ICF が難しいのではなくて、人を捉えるということは、やはり難しいことです。極めて複雑ですから、それを単純化するのではなくて、複雑なものは複雑なままにみることです。……(略)、自分が気になることや、自分が対応できることだけに重点を置いてしまうことにもなりがち。そうならないために ICF を生かすのです」⁷⁾と述べているように、ICF 情報を可視化しながら支援の視点の偏り、見落としが少なくなるよう取り組んでいくことが重要である。

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

文献

- 1) 日本医師会：アドバンス・ケア・プランニング（ACP）,2023
- 2) 筒井孝子：ICF の活用可能性と課題ー研究から得られた知見を通してー,平成 27 年度 ICF シンポジウムプログラム第 5 回 ICF シンポジウム生活機能分類の活用に向けてー環境因子としての支援機器の可能性ー,54,2015
- 3) 佐藤 裕子・木村 弘子：介護過程の展開の理解に向けた取り組みーICF に基づくアセスメントシートを使用した介護過程の実践ー,甲子園短期大学紀要,41,54-64. 2023
- 4) 高橋泰：ICF イラストライブラリー http://www.icfillustration.com/icfil_jpn/top.html(閲覧日 2024 年 5 月 21 日)
- 5) ICF-CY Japan Network: ICF チェックリスト e-Angel Edition <https://www.icfcy-jpn.org/icfcy%E9%9B%BB%E5%AD%90%E5%8C%96%E3%83%97%E3%83%AD%E3%82%B8%E3%82%A7%E3%82%AF%E3%83%88-e-angel> (閲覧日 2024 年 5 月 21 日)
- 6) 安達潤、吉川徹：ICF 情報把握・共有システムを活用した多領域連携が知的・発達障害の早期支援にもたらす効果ー愛知県碧南市での社会実装研究を通じてー,小児の精神と神経,60(4),309-324,2021
- 7) 大川弥生：リハビリテーションと生活機能,第 32 回総合リハビリテーション研究大会 分科会グループ 4,障害保

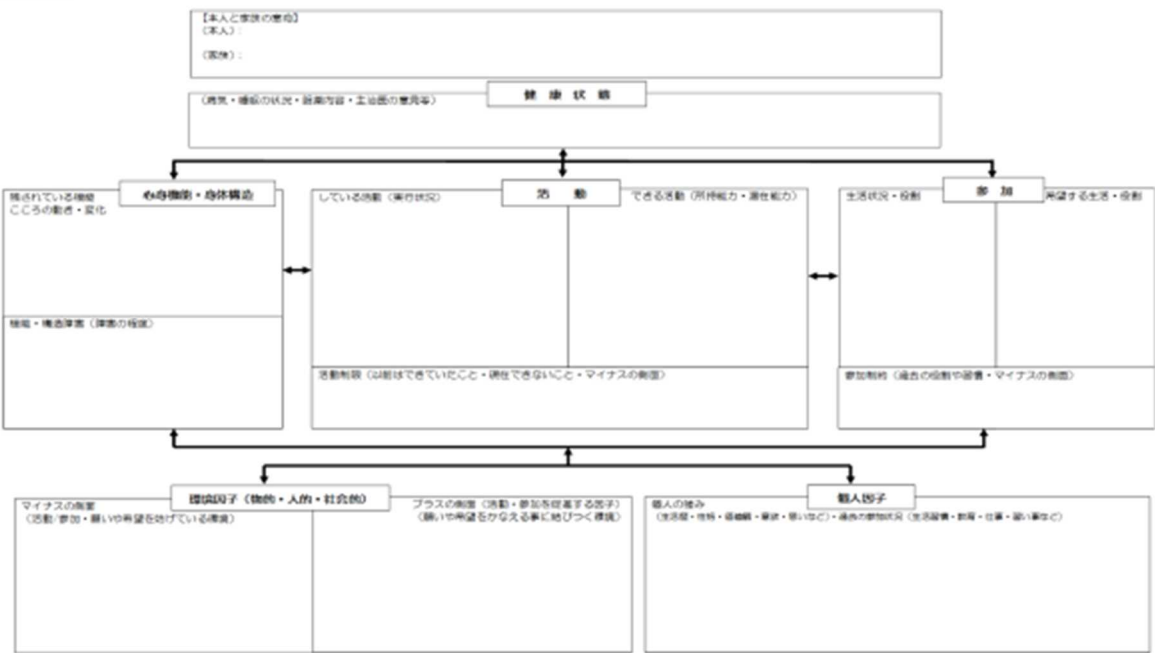


図1 ICF 概念図情報整理シート²⁾

表1 ICF 情報収集シート²⁾

情報収集シート		記入者名			
	心身機能・身体構造	活動（している活動）	参加（状況）	健康（状況）	個人状況・本人の思い
大 事					
困 難					
人 際・社会					
やりたい					
活 動					
健 康					
コミュニケーション					
空 事					
精神障害					
認知・感情・意識					